

「えべつ未来づくりビジョン〈第6次江別市総合計画〉中間改訂素案」及び 「えべつ未来戦略」に対する市民意見募集の結果と市の考え方について

平成30年6月
江別市企画政策部政策推進課

■意見の募集結果

募集期間	平成30年4月26日～平成30年5月31日
提出者数	2人
提出件数	10件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
1	えべつ未来 づくりビジョン	市内の主な幹線・交差点に右折レーンを整備してほしい。	右折レーンの設置につきましては、道路管理者が交差点の混雑状況や事故の危険性等から必要性を検討し整備を行っているところです。 主な幹線・交差点の右折レーンの整備につきましては、引き続き、まちづくり政策05-02-(1)「安全で快適な道路環境づくり」の取り組みの中で、対応して参りたいと考えております。	C
2	えべつ未来 づくりビジョン	交差点が夜間暗いので、交差点や横断歩道は夜間明るくして、車からも歩行者を見えやすくしてほしい。	交通安全の確保を図るため、幹線道路の交差点について街路灯の整備を進めてきているところです。利用者が安心して通行できる道路環境づくりは重要だと考えておりますので、いただいたご意見につきましては、今後まちづくり政策05-02-(1)「安全で快適な道路環境づくり」を推進していく際の参考とさせていただきます。	C
3	えべつ未来 づくりビジョン	江別駅前整備、江別駅南口側にバス・タクシー・一般乗用の迎えスペース整備、高砂駅南北側にもバス・タクシー・一般乗用の迎えスペース整備をしてほしい。	江別市の都市構造上、駅は主要な交通結節点であるため、他の交通手段との安全でスムーズな接続は重要な課題だと考えております。いただいたご意見につきましては、まちづくり政策05-01「市街地整備の推進」の取組の中で参考とさせていただきます。 (江別駅南口(H24)、高砂駅北側(H30完成予定)については、一般車両送迎用のスペースを限られた用地の中で整備しています)	C
4	えべつ未来 づくりビジョン	江別駅に特急列車全便停車をしてほしい。 札幌市内近郊で、江別から旭川方面へ行く場合、札幌へ行くか、岩見沢での乗り換えとなる。快速列車の本数も数が少ないので、ぜひ実現してほしい。	駅を中心とする交通網を基本とする本市にとって、鉄道の利便性は重要なものと考えております。いただいたご要望につきましては、貴重なご意見として承ります。	E
5	えべつ未来 づくりビジョン	高齢者の江別市内バス・タクシー利用に補助して、高齢者の足の確保と利用促進して健康に暮らせる街にしてほしい。	高齢化の進行により、自家用車を利用することができない市民の増加が予想されます。このため、現在策定中の個別計画である江別市地域公共交通網形成計画により、高齢者の移動、外出を支援する制度の導入可能性について、検討を進めます。	B
6	えべつ未来 づくりビジョン	子育てにおいて、医療費の負担について、小学校卒業まで1割負担とか、中学生においても負担割合を見直してほしい。	市では子育て世帯の医療費負担の軽減、乳幼児等の健康増進を目的に、医療費の一部を助成しており、平成29年8月からは、3歳以上就学前までの課税世帯の子どもの通院医療費助成を1割負担から初診時一部負担に拡大したところです。子育て世帯への負担軽減は重要であると認識しているところですが、助成内容の拡大につきましては、市の子育て支援策全体の中で総合的に判断する必要がありますと考えております。	C

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
7	えべつ未来戦略	<p>Ⅱ えべつ未来戦略(基盤・推進機能)の戦略実現に向けての数値目標の項目の欄でもつくる協同の街づくりの1は、学生の地域定着に向けたではなく、地域産業と大学の連携数の数に変更すべきでは？</p> <p>また、次のえべつの魅力発信シティプロモートの欄の1も、転入前に江別市の特産品や観光施設を知っていたではなく、転入に際し、他市町村に比較した江別市の優位性の項目内容と判断をした割合に変更することにより、より未来戦略素案の具体策に結びついていくのでは？</p>	<p>基盤「ともにつくる協働のまちづくり」の数値目標につきましては、産学官連携の視点から、学生の地域定着だけではなく地域産業と大学や学生との連携を測る指標を検討します。</p> <p>また、推進機能「えべつの魅力発信シティプロモート」の数値目標につきましては、シティプロモートの定義として、「単なる情報発信にとどめず、江別市の持つ魅力や優位性を市内外に、効果的に発信していく取組」としておりますことから、転入前に江別市の特産品・観光施設を知っていることを把握することで、市外へのシティプロモートの推進状況を把握できるものと考えております。</p>	C
8	えべつ未来戦略	<p>Ⅲ えべつ未来戦略(戦略)戦略1 にぎわいと活力を創出するまちづくりの節での後半部分、そこで、観光産業は複合産業として……観光振興策を展開します。の項目ですが、活力はむしろ当市の主力産業である農業の活性化にあるのではないのでしょうか？ したがってむしろ前半部分にこそ、また、江別市の多彩な農畜産物を……の推進に重点的に取り組みます、があるべきと考えます。協働を背景に、基幹産業の農業を活性化、差別化(ブランド化、高付加価値化etc)を進め、その優位性が生まれることによって、はじめて観光産業が重点的な戦略になり、農家レストラン、マルシェ、スウィーツストリート等その他の全市の取組み、配置により、都市型農業とまちづくりも効果的に連動、現実化していくと考えられます。</p>	<p>当市では、農業の活性化や差別化は重要な取組と考えており、江別の立地性を生かした都市型農業を推進し、農畜産物の他産地との差別化を図り、産業界連携により農畜産物のブランド化やイメージアップを進め、高品質・高付加価値の商品化を目指します。</p> <p>また、当市では平成30年3月に観光振興計画を策定し、「食」と「農」を観光の軸と位置付け今年度から計画的に観光振興施策を展開しているところであります。</p> <p>このような中、今後は、さらに直売所や農家レストラン、体験施設などのグリーンツーリズム施設と連携して、「食」と「農」の魅力向上に努めていくことから、ご意見のとおり記載を一部修正します。</p>	A
9	えべつ未来戦略	<p>戦略2安心して子どもを産み育てることができるまちづくりについては、戦略中で最も効果が現れている政策であると思われそうですが、追加の施策を打つことによって更に効果が拡大し、最終的に人口増が継続して生み出せるような状況に変えようと考えます。未だ変わらない自然減傾向に対する出産援助対策(優遇施策、病院確保、連携etc)や、社会増対策の追加では教育支援として、将来江別に住むことにより返還が免除される奨学資金等も考えられるのではないかと思います。</p> <p>また、公園施設の整備等も有効な選択要因となりえます。いずれにしても、当市の立地を最大限に活かして、将来を確実なものにするドメインの戦略は、この戦略ではないかと考えられます。したがって、戦略実現に向けての数値目標項目における数値目標(基盤・推進機能)の1および2の設定は、出産関連の充実度や、他都市との比較訴求がわかり易いかどうかを設定し、具体的施策に影響を与えるものにして、素早い修正が可能のほうがよいと思われれます。その観点から見ると、重要業績評価指標(KPI)もより具体的にしなければPDCAに結びつかないと思う。</p>	<p>当市では、平成28・29年と人口が転入超過になっていることに加え、平成30年5月1日時点において、昨年5月1日との人口比較では、人口増加になっており、各政策の成果が出てきていると考えております。出産援助対策では市立病院産婦人科の独自の取組として産後外来を行っているほか、教育支援としては小学1年生からの英語活動や退職教員による学習サポートなどに取り組んでおります。今後も江別の立地性を生かしながら、効果的な子育て支援・教育支援策等を展開してまいります。</p> <p>数値目標、重要業績評価指標(KPI)につきましては、ご意見のとおり他都市との比較可能でわかりやすい指標であることは重要であると考え、策定時に他都市との社会指標の比較検討を行っております。しかしながら、それぞれの都市の成り立ちや地勢、特徴や政策は大きく異なることから、えべつ未来戦略の政策効果を測るのに適切な指標を検討し設定してまいりたいと考えます。</p> <p>なお、具体的な成果指標の設定につきましては、総合計画の方向性を踏まえて分野ごとに定める個別計画等においても設定し、進行管理を行ってまいります。</p>	C

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
10	えべつ未来戦略	<p>戦略3子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくりでは、基本的方向のなかでも、江別版「生涯活躍のまち」構想の実現に向けた取組が重要と考えられます。高齢者の不健康は、社会からの疎外感とその主たる原因ではないでしょうか。</p> <p>「生涯活躍のまち」構想とは、有無を言わず社会（江別市）に巻き込む仕組みをつくることだと思います。必要な存在だと意識することにより、健康を維持していく努力を自らすると思います。シルバー人材センターを中心に、未来戦略の各項目に沿った仕事、役割を提示、培った能力、技術、労力を提供してもらう制度を作り上げることによって、各戦略は加速していくのではないのでしょうか。</p> <p>たとえば、戦略1の農業の活性化での人手不足対応を、就労時間を短くして、複数の高齢者人員でシフト化、スケジュール化することによって可能になることが多々あるのでは。また、戦略2と関連しては、子育ての終わった世代の保育援助、支援も可能になると思います。体力（適正作業）と就労時間さえ考慮すれば、さらに充実した子育て支援体制が出来上がるのでは。更に、市内には各産業で中心となって働いていた方々が大量にいらっしゃると思われませんが、その方々の力をかしていただくために、シルバー人材センターこそ要になると思われます。高齢人口の構成が確実に上がるのに対応するためには、高齢者にあった社会参入の仕組みを作り上げるのではないのでしょうか。</p>	<p>高齢者が健康でいきいきと暮らしていくためには、高齢者が長い人生で培った能力や技術、労力を社会に生かすとともに、社会の一員として、生きがいを持って活躍できるよう、社会参加を促進することが重要と考えます。いただいたご意見につきましては、えべつ未来戦略の戦略3「子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり」やまちづくり政策03-04-(1)「地域交流と社会参加の促進」を推進する際の参考とさせていただきます。</p>	C